

平成27年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成27年 8月 24日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：トマト茎えそ病（仮称）

病害ウイルス名：Chrysanthemum stem necrosis virus（CSNV）

作物名：トマト

1 発生経過

- 平成27年3月に、県東部の施設栽培トマトにおいて、葉及び成長点付近にえそ、果実の着色不良が散見される株が認められ、当センター普及指導部を通じ、診断依頼があった。
- 当センター生産環境部において、発症株を対象として、キュウリモザイクウイルス（CMV）、トマト黄化えそウイルス（TSWV）をImmunoStrip Test（Agdia社）で検定した結果、陰性であった。
- 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構・中央農業総合研究センターに診断を依頼したところ、Chrysanthemum stem necrosis virus（CSNV）が検出され、CSNVによるトマト茎えそ病（仮称）と確認された。
- トマト茎えそ病（仮称）の神奈川県内での発生確認は初めてである。

2 病徴および生態

- 茎葉では、えそ（図1）、黄化、褐変の症状が見られ、果実では、着色不良（図2）、えそ、変形の症状が見られる。また、成長点付近では、えそ、萎縮（図3、4）、褐変の症状が見られ、TSWVによるトマト黄化えそ病と酷似する。
- 本病原ウイルスは、TSWVと同じトスポウイルス属に属し、ミカンキイロアザミウマによって媒介される。媒介は永続的だが、経卵伝染、土壌伝染、種子伝染や汁液伝染（管理作業時にハサミや手指等に付着した汁液を介しての伝染）はしないと考えられている。
- 寄主作物は、キク、トマト、ピーマン、アスター、トルコギキョウ等が報告されている。

3 防除対策

- 発病株は抜き取り、土中に埋却するか焼却するなど適切に処分する。
- 施設開口部は、防虫ネット等を設置し、ミカンキイロアザミウマの施設外からの侵入を防ぐ。
- 防除指針を参考に、媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を育苗期から徹底す

る。

(4)栽培終了後は、施設を密閉して蒸し込み、保毒虫を死滅させる。



図1 トマト葉のえそ症状



図2 トマト果実の着色不良



図3 トマト成長点のえそ症状



図4 トマト成長点のえそ及び萎縮症状

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>